



## 2025年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ブシロード 上場取引所 東  
コード番号 7803 URL <https://bushiroad.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木谷 高明  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理財務本部長 (氏名) 村岡 敏行 TEL 03 (4500) 4350  
配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年6月期第1四半期の連結業績（2024年7月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期第1四半期	12,273	5.9	510	△17.8	△6	—	59	△80.2
2024年6月期第1四半期	11,584	△6.1	621	△28.3	770	△35.1	299	△53.4

(注) 包括利益 2025年6月期第1四半期 △40百万円 (—%) 2024年6月期第1四半期 481百万円 (△37.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第1四半期	0.85	0.84
2024年6月期第1四半期	4.21	4.17

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期第1四半期	48,370	22,872	44.7
2024年6月期	50,605	23,271	43.7

(参考) 自己資本 2025年6月期第1四半期 21,642百万円 2024年6月期 22,116百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00	—	4.50	4.50
2025年6月期	—				
2025年6月期（予想）		0.00	—	4.50	4.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,000	5.9	2,000	126.6	2,000	5.4	1,000	24.2	14.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年6月期1Q	71,440,550株	2024年6月期	71,428,550株
② 期末自己株式数	2025年6月期1Q	1,296,466株	2024年6月期	1,296,466株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年6月期1Q	70,142,594株	2024年6月期1Q	71,299,365株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算説明内容の入手方法)

2024年11月19日 (火) 15時30分以降、当社ウェブサイトにて動画配信する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10
(1株当たり情報の注記) .....	11

[期中レビュー報告書]

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、社会・経済活動の持ち直しの傾向が続いている一方、中国経済の見通しへの懸念、継続的な物価の上昇や為替の変動による影響等によって、依然として先行きが不透明な状況が続きました。

このような環境の中、当社グループは「IPディベロッパー」戦略のもと、TCG（トレーディングカードゲーム）を柱とし、グローバル展開を引き続き推進してまいりました。国際展示会「Bushiroad EXPO 2024」を、7月にロサンゼルス、上海、ロンドン、9月にマレーシアで開催し、多くのユーザーとディストリビューターにご来場いただきました。また、2024年9月に株式会社ブシロードアジアを韓国に設立いたしました。アジア地域におけるTCG流通の強化及び市場拡大により注力してまいります。

その結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高12,273,952千円（前年同四半期比5.9%増）、営業利益510,818千円（同17.8%減）、経常損失6,640千円（前年同四半期は経常利益770,630千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益59,356千円（同80.2%減）となりました。

各セグメントの経営成績は次のとおりであります。なお、セグメント売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

なお、当第1四半期連結会計期間より、「エンターテインメント事業」内のユニット名称の変更、区分の再構築をしております。「デジタルコンテンツユニット」を「コンテンツユニット」へと変更し、「BI (Bushiroad International) ユニット」を廃止、重複して属していた「TCGユニット」・「コンテンツユニット」へ報告内容をそれぞれ統合しました。なお、この変更はセグメント内のユニット構成の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

#### 1. エンターテインメント事業

##### ①TCG（トレーディングカードゲーム）ユニット

TCGユニットは全体として順調に推移いたしました。「カードファイト!! ヴァンガード」は、前期に引き続きTVアニメ新シリーズが好評を博しております。また、9月20日に展開開始となった「hololive OFFICIAL CARD GAME」（企画・開発：カバー㈱、販売・運営協力：㈱ブシロード）も順調な初動となりました。

##### ②コンテンツユニット

コンテンツユニットは、モバイルゲーム1タイトルをクローズし、赤字幅を縮小したことにより全体としては堅調に推移いたしました。2024年8月8日に発売したビジュアルノベルゲーム「少女☆歌劇 レヴュースタァライト 舞台奏像劇 遙かなるエルドラド」はSteamにて高い評価をいただき、順調な初動となりました。また、デジタルゲームに捉われないIP創出・展開を目的として、名称をデジタルコンテンツユニットからコンテンツユニットへ変更いたしました。

##### ③ライブエンタメユニット

ライブエンタメユニットは、前四半期に引き続き順調に推移いたしました。2024年7月27日・28日に武蔵野の森総合スポーツプラザにて開催したMyGO!!!! 6th LIVE「見つけた景色、たずさえて」では多くの海外からのお客様にご来場いただきました。また上海でのライブイベントも好評を博し、海外展開も順調に進行しました。

##### ④MD（マーチャンダイジング）ユニット

MDユニットは、主に中国にてキャラクター雑貨の売上が増加したことや、グッズショップ等とのコラボ催事が国内外で増加したことが影響し、好調に推移いたしました。

##### ⑤アドユニット

アドユニットでは、イベント運営・制作やアニメ委員会への出資等を通じてグループ事業全体の規模拡大に引き続き貢献いたしました。また、映画『劇場版すとぷり はじまりの物語〜Strawberry School Festival!!!〜』の配給を㈱ブシロードムーブが担当いたしました。

これらの結果、エンターテインメント事業は、売上高10,767,250千円（前年同四半期比8.8%増）、セグメント利益448,748千円（同24.0%増）となりました。

## 2. スポーツ事業

スポーツユニットは、「新日本プロレス」「スターダム」とも観客動員数が軟調に推移いたしました。「新日本プロレス」では「ヤマダインフラテクノス Presents G1 CLIMAX 34」、「スターダム」では「5★STAR GP 2024」を開催いたしました。

当第1四半期連結会計期間は観客動員数が軟調に推移したため、スポーツ事業は、売上高1,506,701千円（前年同四半期比10.6%減）、セグメント利益62,069千円（同76.1%減）となりました。

### （2）当四半期の財政状態の概況

#### （資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は48,370,067千円となり、前連結会計年度末に比べ2,235,489千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が1,160,444千円、売掛金が540,481千円、投資有価証券が324,778千円減少したことによるものです。

#### （負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は25,497,897千円となり、前連結会計年度末に比べ1,835,706千円減少いたしました。これは主に長期借入金が1,208,494千円増加した一方で、未払金が1,040,553千円、1年内返済予定の長期借入金が907,590千円、社債が200,000千円、未払法人税等が171,517千円減少したことによるものです。

#### （純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は22,872,169千円となり、前連結会計年度末に比べ399,782千円減少いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が146,795千円増加した一方で、配当金の支払により利益剰余金が315,594千円、為替換算調整勘定が300,868千円減少したことによるものです。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

TCGユニットでは、2024年9月に新TCG「hololive OFFICIAL CARD GAME」が順調な立ち上がりとなりました。以降も、2024年10月に「五等分の花嫁 カードゲーム」、2025年2月に「ラブライブ！シリーズ オフィシャルカードゲーム」、2025年に「ゴジラ カードゲーム」と多数の新TCG展開を予定しております。

コンテンツユニットでは、モバイルゲームの運営適正化はおおむね完了し、コンソールゲームにおいて2025年1月に「カードファイト!! ヴァンガード ディアデイズ2」を発売するなど、今後も多数のゲームを発売してまいります。

ライブエンタメユニットでは、2025年1月から新作TVアニメ「BanG Dream! Ave Mujica」が放送開始となるため、第4四半期にパッケージの展開や大型ライブを予定しております。

スポーツユニットでは、毎年恒例となっている1.4東京ドーム大会を、当期は2025年1月4日に「WRESTLE KINGDOM 19 in 東京ドーム」、5日に「WRESTLE DYNASTY」と2DAYSで開催いたします。

また、2025年1月13日に開催する「ブシロード新春大発表会 2025」にて、新TCGの詳細発表をはじめブシロードコンテンツ全体の下期以降の展開について発表する予定です。

総じて、前期と同様に下期偏重となる進捗を計画しております。

2025年6月期の連結業績予想につきましては、売上高は49,000,000千円（前年同期比5.9%増）、営業利益は2,000,000千円（同126.6%増）、経常利益は2,000,000千円（同5.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,000,000千円（同24.2%増）を予想しております。

（注）業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,807,131	24,646,686
売掛金	6,748,484	6,208,002
商品及び製品	1,619,261	1,316,608
仕掛品	2,335,946	2,290,751
貯蔵品	48,654	55,041
その他	3,159,492	3,027,736
貸倒引当金	△18,215	△16,575
流動資産合計	39,700,755	37,528,252
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,184,211	1,172,249
機械及び装置(純額)	1,097,217	1,104,248
工具、器具及び備品(純額)	121,900	115,680
車両運搬具(純額)	28,957	28,605
土地	1,027,220	1,027,220
リース資産(純額)	27,108	24,745
その他(純額)	108,021	64,946
有形固定資産合計	3,594,636	3,537,695
無形固定資産		
ソフトウェア	200,587	208,263
ソフトウェア仮勘定	37,693	11,660
のれん	421	168
その他	104,789	88,735
無形固定資産合計	343,492	308,827
投資その他の資産		
投資有価証券	5,316,306	4,991,527
長期貸付金	107,130	248,663
繰延税金資産	939,679	1,258,861
その他	625,666	589,037
貸倒引当金	△27,575	△96,978
投資その他の資産合計	6,961,207	6,991,111
固定資産合計	10,899,337	10,837,634
繰延資産		
株式交付費	5,463	4,180
繰延資産合計	5,463	4,180
資産合計	50,605,556	48,370,067

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,929,105	5,882,337
未払金	2,256,203	1,215,649
未払法人税等	601,999	430,481
1年内返済予定の長期借入金	5,332,572	4,424,982
1年内償還予定の社債	700,000	700,000
賞与引当金	116,291	236,752
その他	2,865,407	2,029,179
流動負債合計	17,801,580	14,919,382
固定負債		
長期借入金	7,215,095	8,423,589
社債	2,050,000	1,850,000
役員退職慰労引当金	77,352	82,323
退職給付に係る負債	133,874	135,048
繰延税金負債	2,541	57,645
その他	53,159	29,907
固定負債合計	9,532,023	10,578,514
負債合計	27,333,603	25,497,897
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,773,757	5,774,509
資本剰余金	5,710,527	5,711,279
利益剰余金	9,826,715	9,505,444
自己株式	△568,751	△568,751
株主資本合計	20,742,249	20,422,482
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△126,218	20,576
為替換算調整勘定	1,500,487	1,199,619
その他の包括利益累計額合計	1,374,269	1,220,196
新株予約権	286,060	306,329
非支配株主持分	869,373	923,161
純資産合計	23,271,952	22,872,169
負債純資産合計	50,605,556	48,370,067

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
売上高	11,584,885	12,273,952
売上原価	7,476,277	8,325,263
売上総利益	4,108,608	3,948,689
販売費及び一般管理費	3,487,245	3,437,870
営業利益	621,362	510,818
営業外収益		
受取利息及び配当金	48,605	117,857
持分法による投資利益	14,380	63,527
為替差益	100,413	—
助成金収入	4,360	221
その他	2,633	3,228
営業外収益合計	170,392	184,835
営業外費用		
支払利息及び社債利息	17,570	43,686
為替差損	—	655,230
その他	3,553	3,377
営業外費用合計	21,124	702,295
経常利益又は経常損失(△)	770,630	△6,640
特別利益		
関係会社株式売却益	—	165,995
特別利益合計	—	165,995
税金等調整前四半期純利益	770,630	159,354
法人税等	426,317	54,133
四半期純利益	344,312	105,221
非支配株主に帰属する四半期純利益	44,372	45,865
親会社株主に帰属する四半期純利益	299,940	59,356

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益	344,312	105,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△34,458	146,795
為替換算調整勘定	171,830	△269,146
持分法適用会社に対する持分相当額	197	△23,799
その他の包括利益合計	137,568	△146,150
四半期包括利益	481,881	△40,929
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	437,137	△94,716
非支配株主に係る四半期包括利益	44,744	53,787

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しています。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（セグメント情報等の注記）

I 前第1四半期連結累計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	エンターテイメント事業	スポーツ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,899,525	1,685,360	11,584,885	—	11,584,885
セグメント間の内部売上高又は振替高	53,170	54,722	107,892	△107,892	—
計	9,952,695	1,740,082	11,692,777	△107,892	11,584,885
セグメント利益	361,795	259,566	621,362	—	621,362

（注）セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年7月1日 至 2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	エンターテイメント事業	スポーツ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,767,250	1,506,701	12,273,952	—	12,273,952
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,602	22,955	28,557	△28,557	—
計	10,772,853	1,529,657	12,302,510	△28,557	12,273,952
セグメント利益	448,748	62,069	510,818	—	510,818

（注）セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	124,284千円	168,385千円
のれんの償却額	253	253

(1株当たり情報の注記)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年9月30日)
1株当たり四半期純利益	4円21銭	0円85銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	299,940	59,356
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	299,940	59,356
普通株式の期中平均株式数(株)	71,299,365	70,142,594
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	4円17銭	0円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	—	—
普通株式増加数(株)	637,717	335,591
(うち新株予約権)	(637,717)	(335,591)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年11月14日

株式会社ブシロード

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鈴木 直幸  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 村田 賢士  
業務執行社員

## 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社ブシロードの2024年7月1日から2025年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年7月1日から2024年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年7月1日から2024年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手

続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。